

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	塩津 裕康	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(リハビリテーション学)	
学位授与番号	甲第134号	
学位授与日付	平成27年3月13日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	高齢者における摂食嚥下機能低下および作業療法に関する研究	
審査委員	教授 古我 知成	教授 井上 桂子
	教授 渡邊 進	

博士論文内容の要旨

本研究の目的は、高齢者の食事の問題に対する作業療法を発展させていくことである。本論文は、4つの研究データから構成されており、大きく2種類の研究に分けられる。一つは、「高齢者の嚥下機能に関する研究」である。高齢者の食事の問題に対処するための作業療法を実施するにあたり、嚥下機能評価、栄養状態評価、日常生活活動評価を行い、特にサルコペニアと診断された高齢者の嚥下機能の特徴を浮き彫りにした(第1章)。もう一つは、「高齢者の食事の問題に対する作業療法研究」である。食事の問題を抱える高齢者に対する作業療法的介入は、食事遂行の質や対象者及び家族の満足度を高める可能性が示唆された(第2章)。また、食事の問題を抱える高齢者に対する作業療法の効果を検証するために、スプーンの種類と把持様式の組み合わせにおける食事運搬動作の関節可動域の変化を明らかにした(第3章)。さらに、様々な摂食方法を試行させ、嚥下活動時の喉頭及び舌骨運動時間や呼吸様式にどのような影響があるのかを検証し、食事動作の改善が嚥下機能も改善させていくという、摂食嚥下リハビリテーションの新たな視点についても考察した(第4章)。

博士論文審査結果の要旨

本論文は、高齢者における摂食・嚥下機能低下及び作業療法に関する研究であり、作業療法の臨床に関係の深い実践的かつ新規的なものである。論文は、序章で研究の背景を述べ、高齢者の嚥下機能低下に関する調査(第1章)、食事の問題を抱える高齢者に対する作業療法効果(第2章)、スプーンの種類と把持様式の組み合わせに関する研究(第3章)、食事動作の違いが嚥下・呼吸に及ぼす影響(第4章)からなる。全体的に流れよく構成されており、理解しやすい。論文内容は、権威ある学術雑誌に3編(和文誌:2編、英文誌:1編)掲載されており、質は保障されている。総合的に、作業療法的介入が、摂食嚥下リハビリテーションの改善に寄与することを示唆する論文であると判断された。最終審議の結果、本論文は博士論文に十分値すると判定した。